

Q&A



南方熊楠先生

Q 番所山にはどんなめずらしい生物が棲息しているのですか？

A たとえば私が研究した**粘菌**じゃ

Q 粘菌ってどんなものなのですか？

A 粘菌(変形菌)は、キノコやシダのように胞子を作るので植物のようでもあり、アメーバのように動き回るので動物のようでもあるのだが、実は粘菌はどちらにも属さない不思議な生き物なんじゃよ。右上の写真は木を這っているアメーバ状の粘菌(変形体という)じゃが、右下は変形体が一日で子孫を残すために胞子を持ったキノコのような状態に変化した粘菌(子実体といい1ミリ程度の大きさ)。粘菌は約900種類あるといわれているんじゃよ。



Q 他にはどんなめずらしいものがあるの？

A お前さんじゃよ！



オカヤドカリ(天然記念物)

夏から秋にかけて出現しますが、めったに会えません。本来は沖縄や小笠原など、温かいところに住んでいるのですが、番所山付近で何年も越冬し、大型に成長する仲間も稀にいます。陸生の動物になりきれなくて、エビの様なこどもを故郷の海へ産みに行きます。天然記念物指定なので捕獲禁止で、触ることも許可されていないので、出会っても暖かく見守ってくださいね。

番所山には粘菌やオカヤドカリをはじめ、貴重な自然がたくさん残されています。その生態系は複雑で、一度壊れてしまうと元に戻すのがとても大変で、もしかするともう二度と戻らないかもしれません。豊かな自然と、そこに暮らす生き物たちを傷つけることなく、大切に見守っていきましょう。
“とっていいのは写真だけ！”
“残していいのは思い出だけ！”

貴重な自然を守ろう



- 鉄道で**
- 名古屋・岡山方面から ※新大阪から2時間10分
名古屋・岡山 → 〈新幹線〉 → 新大阪 → 〈JRきのくに線くろしお号 2時間50分〉 → 白浜
 - 京阪神方面から ※京都から2時間40分
京都・新大阪・天王寺 → 〈JRきのくに線くろしお号〉 → 白浜
- お車で**
- 名古屋・京都・大阪方面から
名古屋・京都 → 〈名神高速道路〉 → 吹田JCT → 〈近畿自動車道〉 → 松原JCT → 〈阪和自動車道〉 → 南紀田辺IC → 〈R42ほか〉 → 白浜
 - 神戸方面から
神戸 → 〈阪神高速湾岸線〉 → りんくうJCT → 〈関空自動車道〉 → 泉佐野JCT → 〈阪和自動車道〉 → 南紀田辺IC → 〈R42ほか〉 → 白浜
- バスで**
- 大阪 → 〈高速バス〉 → 白浜 ※毎日10往復 (JR大阪駅から3時間30分、なんばOCATから3時間10分)
 - 和歌山 → 〈高速バス〉 → 白浜 ※毎日5往復 (南海和歌山市駅から2時間30分、JR和歌山駅から約2時間)
 - 京都 → 〈高速バス〉 → 白浜 ※毎日2往復 (京都駅八条口から約4時間)

JR 白浜駅から番所山公園までの交通

白浜駅	明光バス	約20分	バス停
	町内循環線(とれとれ市場・臨海・三段壁経由)		臨海 下車すぐ
	タクシー	約15分 (約2000円)	番所山公園

番所山を拠点とした臨海地域活性化協議会
 事務局: 白浜町観光課 / 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
 TEL (0739) 43-5555 / FAX (0739) 43-5353
<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/>

番所山

フィールドミュージアム

自然観察ガイドマップ

FIELD MUSEUM

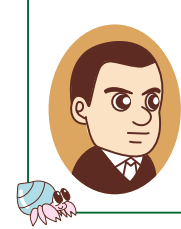
BANSHO-YAMA

和歌山県 白浜町

番所山

Q 番所山ってどんなところですか？

A 標高32.5mの番所山一帯は、田辺湾の南端に位置し、円月島や塔島を望む風光明媚な自然公園じゃ。
 その昔、寛永20年(1643年)この地に遠見番所が置かれ、田辺与力36人が交代で異国船の監視に当たったことから「番所山」と呼ばれるようになったんじゃな。この山頂には、私の生涯を紹介する「南方熊楠記念館」と、昭和天皇の御製「雨にけふる神島を見て紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」の碑が建てられているんじゃ。



南方熊楠 (1867年4月15日~1941年12月29日)
 幼い時から驚くべき記憶力の持ち主、世界的博物学者。19才の時に渡米、植物の魅力にとりつかれ、その研究に没頭。紀州は田辺に居を構えと精力的に研究に打ち込み、その採集のため熊野の山に分け入り、数々の新種を発見。独創的な学問と自然保護運動に命をかけて闘いぬいた巨人であった。

Q 番所山の魅力ってなに？

A 古くは白浜レジャー観光の発祥地であり、植物園、動物園、遊園地が開園され、大いに賑わっていたんじゃ。今でもこの地には円月島や塔島など、すばらしい景観と、そこに暮らす多くの珍しい生き物が残されておる。今後も浜辺や森の自然に安全に触れ合えるよう、解説板や樹名板を設置したり、展望台、遊歩道、芝生広場の整備も進めておるのじゃ。
 自然をよく観察し、そのしくみや不思議さを知ることは、自然を理解し守っていくための第一歩なんじゃ。その意味で、この番所山は、海と山とが一体となったエコロジー(生態学)を学ぶ最適な場所といえる。
 私の「十二支考」にちなんで遊歩道沿いに、干支をかたどった12種類のチェーンソーアート(ノコギリで作った彫刻)もあるので楽しんでほしい。
 それに、私の記念館(南方熊楠記念館)と京都大学の水族館があるじゃろう？
 ここで自然を学び、自然を愛し、自然に親しんでほしいのじゃ。
 【南方熊楠記念館】 TEL・FAX: 0739-42-2872
 【京都大学白浜水族館】 TEL: 0739-42-3515



ヒバリガイモドキ

二枚貝の仲間で糸をたくさん出して岩などに付着し、移動はほとんどしません。群生し、小さなゴミ屑を餌にする掃除屋さんです。普通潮間帯動物は干潮線より下にはすめませんが本種は例外です。たまに他の巻貝の餌にされた丸い穴があいた貝殻も見られますので探してみてください。



海洋生物

京都大学フィールド科学教育センター
久保田 信准教授 監修

一年中、いつ訪れても磯の潮だまりで潮が引いたときに必ず出会えて個体数も相当多い海洋動物を選びました。

マツバガイ

貝殻が巻いてはいませんが、巻貝の仲間。微小な藻を食べるため潮がこんできたら移動しますが、元の所(家)に戻ってきます。



クrofジツボ

噴火口のような姿なので貝の仲間かと思うかもしれませんが、なんとエビ・カニの仲間なのです。潮が寄せると“噴火口”から脚をのびし、潮引き運動をするかのように微小なゴミ屑を食べる掃除屋さんです。



ツマジロナガウニ

たくさんあるトゲの先が白いのが特徴です。このトゲの色の特徴がみられない似たような姿のウニは別種です。トゲやとても硬いので怪我をしないように注意してさわってください。南方系のウニで、昔は白浜にいなかったのですが、今ではウニ仲間では最も多くみられるようになりました。



見て、触れて、自然を体感しよう!

ここでは、番所山で見られる磯の生物、貴重な植物を紹介しよう。空からみた番所山のようすもよ~くわかるぞ。



とうしま 塔島

シマナンヨウスギ



りんかいうらがいすいよくしょう 臨海浦海水浴場

みなかたまくまぐすき わんかん 南方熊楠記念館

だいでんぼうひろば 第3展望広場

ばんしよばなとうだい 番所鼻灯台

だいでんぼうひろば 第2展望広場

しば ふひろば 芝生広場

第2駐車場

きょうとだいがく しらはま すいぞくかん 京都大学白浜水族館

第1駐車場

だいでんぼうひろば 第1展望広場

ここから 円月島がよく見えるよ

至臨海バス停→ (グラスポート乗り場)

ケブカガニ

海藻のような毛が体中に生えている変わり者です。なかなか見つけることができますが、潮だまり(タイプール)でよく移動しているのでその存在がわかります。でも、手荒に扱うと脚を自ら切り落としますので、そっと優しく毛などに触ってくださいね。



ハカマカズラ(種子)



ハカマカズラ(葉)



ハカマカズラ(花)



貴重な植物

和歌山県立自然博物館 内藤麻子学芸員監修

オオタニワタリ

南方系のシダ植物です。木や岩の上に生えた様子が、谷を渡っているように見えることから名前がつけました。放射状に大きく広げた葉は迫力があります。新芽は天ぷら等にして食べることができます。南方熊楠記念館入り口の森に生えています。

オオタニワタリ



シマナンヨウスギ

オーストラリアのノーフォーク島に特産する常緑針葉樹で、ノーフォークマツともいいます。重なり合った葉や樹形の美しさが好まれ、1963年、南方熊楠記念館の開館を記念し植樹されました。白浜の温暖な気候が合っているようで、現在では立派な大木になっています。

キノクニシオギク



キノクニシオギク

和名の「キノクニ」は和歌山県の旧国名「紀の国」に由来します。紀伊半島の海岸に自生する野菊の一種です。香りのある葉をひろげ、秋に黄色い花を咲かせます。番所山では、芝生広場から磯に至る道沿いにたくさん生えています。探してみよう。

ハマナデシコ



ハマナデシコ

春から秋にかけてピンク色の花を咲かせる海岸植物です。葉は幅広く厚みがあり、表面には光沢があるので、花の無い時期でもすぐに見つけることができます。番所山では、磯の周辺で観察できます。波にさらわれてしまわないようしっかりと根をおろしています。

ハマユウ



ハマユウ

和歌山県の県民歌に登場する植物で、白浜町花です。葉を広げた様子がオモトに似ていることからハマオモトともいいます。夏に白い花を咲かせます。細長い6つの花被片が目立ちますが、糸状に伸びた雄しべはよく見ると赤紫色をしています。じっくり観察してみてください。

アコウ

南方系の常緑樹で、他の樹木や岩にしがみつきながら生えます。1つの株だけで森と見間違っほど大きくなります。枝や茎の先ではなく、幹に花をつけるという変わった特徴があります。芝生広場に至るトンネルの出口周辺海岸の石垣で観察することができます。

アコウ



ウバメガシ

海岸に生える常緑樹で、和歌山県の県木になっています。材は「紀州備長炭」の原木として利用されます。番所山には遊歩道沿いにウバメガシの森があります。春に花を咲かせ、秋にドングリをつけます。海からの強い風から身を守るため、若い葉には毛が生えています。

ウバメガシ



トベラ

海岸に生える常緑樹です。春に白い花を咲かせ、秋に丸い実をつけます。丸い実は熟すと4つに割れ、赤くて表面に粘り気のある種子が目立ちます。番所山ではウバメガシとともに森を作ります。しゃもじのような形をした葉が特徴的で、すぐに見つけることができます。

トベラ

ハカマカズラ

南方系のつる植物で、和歌山県が北限域となる珍しい植物です。初夏に花を咲かせ、秋に黒い豆の形をした種子をつけます。葉に大きな切れ込みがあり、着物の袴のように見えることから名前があります。記念館周辺にて、太く長いつるを伸ばして生えている様子を観察できます。